

学校名

狭山市立入間野小学校

校長名

丸山 丁士

「生き生きと輝き、心豊かでたくましい児童の育成」

～めあてをもち、一人一人が自己の体力の伸びを実感し、「もっとやってみたい」を

感じる体育指導の充実を目指して～

1 研究主題

「生き生きと輝き、心豊かで  
たくましい児童の育成」  
～めあてをもち、一人一人が自己の体力の伸  
びを実感し、「もっとやってみたい」を感じ  
る体育指導の充実を目指して～

2 研究の期間 (2年次)

令和3年度～令和4年度 2年間

3 研究の目的

本校は、学校教育目標「仲よくする子 考える  
子 やりぬく子」、及び目指す学校像「みんなが大  
切にされる学校」(その具体像として「児童、家庭・  
地域教職員が生き生きと輝く学校」、「心豊かでた  
くましい子が育つ楽しい学校」)の実現を目指し教  
育活動に取り組んでいる。

児童の実態として、約7割5分の児童が「体育  
が好き」、「体育が楽しい」、「体を動かして遊ぶの  
が好き」であるということがわかった一方で、や  
はり「体育があまり好きではない・嫌い」、「体育  
があまり楽しくない・つまらない」、「体を動かして  
遊ぶのがあまり好きではない・嫌い」という児童  
がいることも改めて確認できた。更に、体育や  
体を動かして遊ぶことに対し否定的な理由を探  
ると、「疲れる、体力がない」、「嫌いな運動をする  
とき」、「失敗するとき」、「できないまま終わるとき」  
という児童の思いがわかった。また、教職員の意  
識調査からは、「子供の体力低下が心配である」、  
「子供の体力を伸ばしたい」というコロナ禍での  
児童の体力低下への危惧が明らかにされた。

こうした児童の実態と教職員の思いから、体育  
授業の工夫や体育的活動の工夫等をとおして、児  
童一人一人の体力向上と児童の体育学習への主  
体的なかかわり、そして児童の運動への意欲的・愛  
好的なかかわりを具現化すべく研究に取り組むこ  
ととした。

4 研究の実践内容

(1) 児童の実態把握

ア 新体力テストの結果及び体力プロフィール  
シートを活用

イ 「体力アンケート」(体育科授業について、  
運動習慣や家庭での過ごし方(生活習慣))  
の実施

(2) 目指す児童像

ア 自分のめあてをもち、解決に向けて運動  
する子

イ 力いっぱい運動し、汗をかき運動に親し  
む子

ウ 心も体も健康で、活力に満ちた子

(3) 研究仮説

**仮説Ⅰ** 学習内容を明確にし、豊かなかかわりの中で  
個々の課題に合った学習を展開すれば、より「自己の体  
力の伸び」を実感でき、体育好きの児童を育成するこ  
とができるだろう。

**仮説Ⅱ** 運動の特性や魅力を味わわせ、できる、わかる  
喜びを感じられる機会や場を増やせば、より「体を動か  
すことが楽しい」と感じる運動好きの児童を育成するこ  
とができるだろう。

**仮説Ⅲ** 自己の生活習慣の課題や成果に気付かせ、家庭  
との連携を図りながら生活に生かせれば、自分の体や心  
の成長に関心をもち、健康の保持・増進につながるだろう。

(4) 各研究部の取り組み

ア 体育好き授業研究部

(ア) 「人間野小スタンダード」

全ての学年で同じように授業が展開され  
るよう、授業開始前から授業終了までを9  
つの場面に分け、視覚化した。

(イ) 「めあて」を意識できる「学習カード」  
「ふりかえり」の記入例を示し、自分の  
言葉で記入できるようにした。そして、そ  
のふりかえりを基に次時の自分の課題(め  
あて)を明確にできるようにした。

【学習カード】

①今日、学ぼうとしたこと 「今日は、一を学ぼうしました。」  
②できるようになったこと、学べたこと。「前は一ができなかったけれど、今日一ができるようになりました。」  
③私たちの動きを見て気づいたこと。 「ひのきさんの腰裏の動きがよかったです。なつなら、一だからです。」  
④つぎの学ぼうとしたこと 「つぎは、二を学ぼうします。」

【授業のねらい】

- 個人のめあて
- ふりかえり
- 次時のめあて
- 単元を通してのサイクルを統一

(ウ) 一人一人の『伸び』を見るICTの活用

・ひざも最後までついたままでできた。  
・手の位置もうまくついている。  
・腰もうまくついている。  
・膝も達成できた。

腰もうまくついている  
手の位置もうまくついている  
膝も最後までついている

記録と振り返りに活用

授業での成果を、タブレットを使用し記録をしていく。単元の終わりには、自分の動きを見返し、どのようなところが伸びたのかを確認できるようにした。

イ 運動好き体力向上部

(ア) 「運動に親しめる体力向上のイベント」  
児童が「やってみたい!」「校庭に出たい!」と児童が意欲的になれるよう、また、児童の体力が向上できるよう、イベントを計画し、休み時間に実践した。



(イ) 専門講師による運動教室の実施  
「ベースボール教室」(西武ライオンズ・元プロ野球選手)、「バレーボール教室」(埼玉アザレア所属選手)、「投力教室」(埼玉県ソフトボール協会指導者)、「走り方教室」(箱根駅伝選手・中学校教師)などを実施し、児童が様々な運動に親しめるようにした。



(ウ) 「言葉かけ集」の作成  
児童が運動をしている時に、教員や監督、コーチから言われて技能の向上につながったり、意欲の向上につながったりした言葉をwebでアンケートを取り、教員が体育の授業で使用できる「言葉かけ集」を作成した。

ウ 心と体の情報発信部

(ア) 体育便り『体力UP!UP!』  
学校で行われている体力向上の取り組みとその成果、家庭への啓発等の情報を家庭向け便りとして発行している。

体力UP!UP! 読者の声	体力UP!UP! 読者の声
読者の声	読者の声
読者の声	読者の声

保護者や児童に向けた啓発や  
児童の頑張りを家庭に発信

(イ) 家庭学習カード

家庭でのお手伝いを通じて、体力向上の習慣化、生活化を図る取り組みを行った。

体力アップメニュー



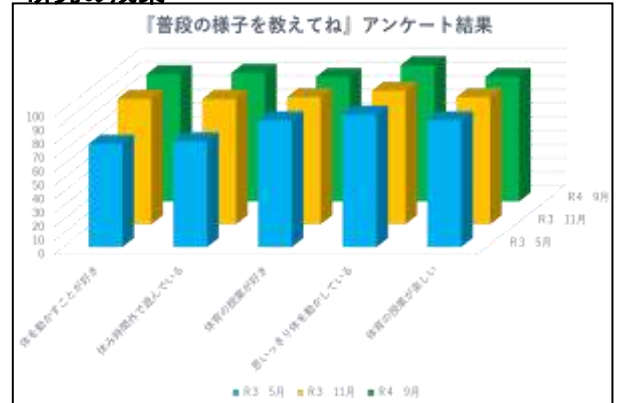
■お風呂掃除 ■ゴミ出し ■家族の荷物持ちなど

(ウ) 体力アップチャレンジ「いるマッコヨくん」

ボール遊びや遊具遊び、鬼遊びなどの運動遊びの時に使った自分の体の部位にシールを貼り、自分の体のことを意識できるようにした。



5 研究の成果



- ・体育の授業が好き・楽しいと答えた児童が全体の90%を超えた。また、体育授業外にも進んで体を動かす児童が増え、休み時間も仲間と関わりながら、生き生きと輝いている姿が生活の中でも多く、見られるようになった。
- ・体育の授業の終わりに「もっとやりたい」という児童の声がたくさん聞こえるようになった。
- ・新体力テストの記録向上に向けた取り組みや体育コーナーなどの場の設置ができた。

6 今後の課題

- ・体育授業の充実を体力向上につなげる取組を全校で継続して実施するための組織作り
- ・小中連携を図った上で9年間を見通した体育授業の実践・改善。(単元計画作成)
- ・運動に意欲的でない児童生徒のための体力向上と運動意欲の向上。(教師の授業力向上)
- ・体力プロフィールシートを活用した児童一人一人の課題に応じた授業実践の工夫。